

2. 事業の目的と概要	
(1) 事業概要	ラオス人民民主共和国（以下、ラオス国）では初等教育の就学率の高いものの、学習環境と学習の成果において国内格差が存在している。特に少数民族が多く居住する農村部では、教育インフラの乏しさに加え貧困や社会・文化的要因などの問題が、生徒たちが低学年で十分なリテラシー（読解力）を獲得することを難しくしており、それが退学率や識字率の格差にもつながっている。 本事業では、少数民族が多く暮らすサバナケット県タパントン郡において、農村部に暮らす子どもたちが社会文化的背景に関わりなく、より良い学習環境のもとで、学ぶ力の基礎となるリテラシー（読解力）を低学年の間にしっかりと身につけることで、長期的には初等教育の退学率や識字率の改善へとつなげていくことを目指す。具体的には、水衛生設備や教材など学校のインフラの改善、教員トレーニングによる教授法の改善、リテラシー向上へ向けた家庭やコミュニティでの取り組み促進を行う。 The project will contribute to the essential components of quality education in village schools in Thapangthong District of Lao PDR, including teacher support, caregiver and community engagement, school resourcing and improved education, water and sanitation facilities. Thapangthong is one of the poorest districts - poverty, geography remoteness, and ethnicity impact on cognitive and language readiness of many children to learn. Project aims to ensure that all children, regardless of gender, ethnicity, economic status, disability can access primary education and improve early literacy. To achieve project goal, the project implements teacher training sessions to enhance the literacy instruction, supports the schools to procure the hardware required for proper sanitation, and guides parents and communities to support children to grow their reading skills.
(2) 事業の必要性 (背景)	(ア) 事業実施国における一般的な開発ニーズ ラオス国の初等教育の純就学率は過去 15 年ほどで急激に改善し、2016 年には 93%に到達した²。一方で初等教育における残存率³は 77%であり、就学率を 16 ポイント下回っており、地域格差（都市部と農村部）と民族間格差（多数民族と少数民族）の形で顕著に表出している。たとえば就学経験や識字率において都市部と農村部では明らかな差が見られる（表 1）。

² ラオスの初等教育純就学率（net enrolment ratio）は 75%（1999 年）から 93%（2012-2015 年）へと改善した。なお近隣国ではカンボジア 89%、タイ 91%、ミャンマー 95%、ベトナム 98%（2012-2015 年）である。（*UNESCO Institute for Statistics*, UNESCO 2015）

³ ここでの残存率（survival rate）とは、最終学年（6 年生）に到達できる生徒の割合を指す。ラオスにおける残存率は 1999 年には 55%だった。なお中等教育（lower secondary）の総就学率（gross enrolment ratio）は全国平均で 74%、事業地のタパントン郡で 51%、初等教育から中等教育への移行率（transition rate）は全国平均 97%、タパントン郡 91%である（いずれも 2014 年データ）。（www.dataforall.org/Profiles/laoeduinfo/）

表 1 都市部と農村部の比較

	都市部	農村部 (幹線道路沿い)	農村部 (幹線道路なし)
就学経験なし(6～16歳)	2.0%	7.7%	11.3%
識字率(15歳以上)	93.5%	80.7%	71.4%

(出典 : LAO PDR, *Results of Population and Housing Census 2015* より WVJ 作成)

多数民族と少数民族の間にも明白な格差が見られる。たとえばラオスの多数民族であるラオ民族と、事業地(タパントン郡)に多く居住する少数民族のカタン民族とを比較すると、就学経験は約 7 倍、識字率では 1.8 倍の差が生じている(表 2)。またカタン民族では識字率の男女格差も際立っている。これらは他の少数民族にも共通する傾向である。

表 2 ラオ民族とカタン民族の比較

	民族の 比率	就学経験なし (6歳以上)	識字率(15歳以上)		
			合計	女性	男性
ラオ	57.1%	5.7%	93.3%	90.8%	95.8%
カタン	1.9%	40.9%	51.0%	38.5%	64.0%
参考: All Ethnic Group		13.1%	84.6%	79.3%	90.0%

※「民族の比率」とは、国内全民族の中で占める割合を指す。

(出典 : Lao PDR, *Results of Population and Housing Census 2015* より WVJ 作成)

これらデータは、ラオスでは「少数民族が多く居住する農村部」での教育課題がより深刻であることを示している。その背景として、教育資源やインフラの問題(政府や世帯の資金不足、道路や通学手段の未整備、教材や水衛生施設等の学校設備の不備など)、教員の問題(正規教員数の不足、訓練不足と教授法の不備)、社会・文化的要因(女子教育の軽視、保護者の無理解、子どもを労働力とみなす傾向、農業サイクルなど)、カリキュラムの問題(教授言語がラオ語など)があるとされる⁴。

こうした課題が、行政によるモニタリング・評価システムの不在や地方政府職員のキャパビル不足とも相まって、少数民族の多くが居住する農村部に住む子どもたちの学習環境を未整備なものとし、高い退学率や低い識字率などの教育格差を招いている。ラオスの教育課題に取り組むには、こうした地域間・民族間格差を踏まえた、地域のニーズに合った初等教育サービスの改善が不可欠である。

(イ) 申請する事業内容(事業地、事業内容)の背景

事業地のサバナケット県タパントン郡は、ラオス国の中で貧困度の高い地域のひとつであり、少数民族であるカタン民族が多く居住する。県人口の 41%が貧困ライン(1.9 ドル/日)以下であり、うち 84%が都市部から離れた遠隔地域の住民である。タパントン郡では貧困ライン以下

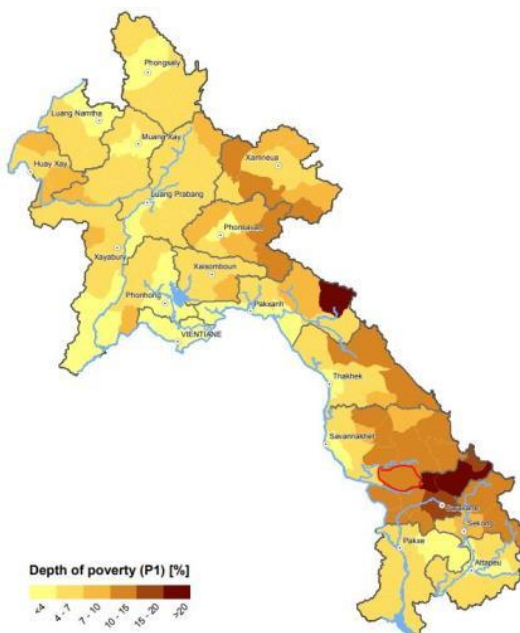
⁴ 乾美紀『ラオス少数民族の教育問題』(2004 年) pp.95-104

で暮らす世帯の割合が 10～15%を占めている（次ページの図参照⁵⁾。

タパントン郡の初等教育残存率は 51%（全国平均 78.3%、県平均 70.1%）と低く、1 年生の退学率は全国平均（11.0%）の約 2 倍の 20.6%、1～6 年生では全国平均の約 3 倍である⁶⁾。その背景として、前項の（ア）で指摘した「少数民族が多く居住する農村部」の抱える教育課題の多くが該当している。

具体例をあげると、カタン民族は日常生活で独自の言語であるカタン語を用いており、入学時に初めて接するラオ語ですべての教科を学習せねばならない。また授業も教員用指導書に頼った一方的な教え方になりがちである。その結果、学習言語であるラオ語を生徒たちが低学年の間に十分に習得できず、教科書の内容を理解する力が不足し、学習の成果を上げることが困難となっている⁷⁾。

【図：各郡の貧困率】



ハードインフラの面では、特に水衛生施設の整備による衛生的な学習環境の確保がラオス全体の課題となっている⁸⁾。タパントン郡ではトイレが設置されている小学校は 45%にとどまり、多くの生徒たちが屋外排泄を余儀なくされ、手洗い・歯磨きなど基本的な衛生習慣を学ぶことも難しい。農村部では下痢や寄生虫のために欠席する生徒も多く、結果として貴重な教育機会が失われている⁹⁾。小学校の水衛生施設の整備は

出席率の向上や退学率の減少につながるものが近年広く認識されており¹⁰⁾、水衛生施設の改善はハードのみならずソフト面での学習環境の改善にもつながるものと言える。

WVJ では 2007 年～2016 年にタパントン郡において地域開発プログラムを実施し、生計向上、保健衛生、教育、子どもの保護などの分野で幅広い活動を行うとともに、住民や学校関係者、県・郡レベル政府関係者

タパントン郡
(10-15%)

⁵⁾ この図は郡別に貧困ライン以下人口が占める割合を 6 段階に色分けして表示したもの。タパントン郡は 10～15%で、いわば“貧困度 4”となる。これよりも数値が悪い郡は、国全体で 4 郡のみである（出典：Results of Population and Housing Census 2015, Lao PDR）。

⁶⁾ 「初等教育における退学率」は全国で 5.2%、サバナケット県 7.3%、タパントン郡 16%となっている。（Lao PDR Education Profile 2011-2015, Ministry of Education and Sports）

⁷⁾ ラオス教育スポーツ省が 2012 年に実施した学習調査 National Assessment of Student Learning Outcomes (ASLO III)では、3 年生でリテラシーがレベル 1 (pre-functional level)に達している生徒は 17%、レベル 2 (functional proficiency level)は 60%、4 年生に問題なく進級できるレベル 3 (independent levels of proficiency)は 23%だった。また国際 NGO の Save the Children が 2013 年に少数民族の多い Attapeu 県と Bolikhamxay 県で 2 年生を対象に行った調査では、生徒は出題された単語の平均 20%しか理解しておらず、文章の内容を理解している生徒は 2～4%だった。また主要言語を話す民族出身の生徒の方が、少数民族の生徒よりも平均点が 10～12 ポイント高かった（World Vision Laos Literacy Scoping Study, 2015）。

⁸⁾ ラオスの小学校でトイレと手洗い場の両方が設置されている学校は全体の 43%、トイレのみ設置校は 10%である（Raising Clean Hands in Lao PDR Joint Call to Action, UNICEF 2015）。

⁹⁾ UNICEF (2015)。なお事業対象の 14 校は、2018 年 6 月現在で衛生的且つ十分な数の手洗い場やトイレが備え付けられていない。

¹⁰⁾ UNICEF (2015)。

	との良好な関係を培ってきた。特に教育分野では県・郡政府と協力し学校施設の改善にも取り組んできた。 現地のニーズと実績を土台に、本申請事業では対象小学校 14 校の低学年（1～3 年生）のリテラシー（＝読解力）向上に焦点を当て、教員の教授法改善とコミュニティレベルでのリテラシー活動促進というソフト面、および学校の水衛生インフラ整備や読解力向上に役立つ教材や図書の整備というハード面から、初等教育の学習環境改善に取り組む。 ●「持続可能な開発目標 (SDGs)」との関連性 <u>目標 4</u> すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。 4.1 2030 年までに、すべての子どもが男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育および中等教育を修了できるようにする。 (※タパントン郡では、小学校 1 年生の退学率は 20.6%) <u>目標 6</u> すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。 6.2 2030 年までに、すべての人々の、適切かつ平等な下水施設・衛生施設へのアクセスを達成し、野外での排泄をなくす。女性および女児、ならびに脆弱な立場にある人々のニーズに特に注意を払う。 (※ラオスの全小学校 (2014 年データで 8,884 校) のうち、水衛生設備が整っているのはおよそ半数) ●外務省の国別開発協力方針との関連性 「対ラオス国 国別援助方針」(2012 年 4 月) では 4 つの重点課題の一つとして中目標 (3) 「教育環境の整備と人材育成」が挙げられ、教育環境の整備、教員の質と学校運営の改善を支援するとしており、本事業の問題意識および目指す成果と合致している。
(3) 上位目標	タパントン郡において、対象小学校における 1～3 年生のリテラシー（読解力）が向上することにより、識字率の向上ひいては退学率の減少にも寄与する。
(4) プロジェクト目標 (今期事業達成目標)	1～3 年生のリテラシー向上へ向けた教員の教授スキル向上と、学校生活に必要な衛生設備・教材の導入により、タパントン郡の対象小学校における学習環境が改善される。 (今期事業達成目標) 対象 14 校における教員への教授スキル研修の実施および衛生設備の設置により、学習環境改善の基盤を作る。

(5) 活動内容	本事業は、「タパントン郡の小学校における 1～3 年生のリテラシー向上に向けた学習環境の改善」を目的とし、3 年間にわたり実施する活動の第 1 年次である。本事業 3 年間の活動内容は以下の通り。 1 年次 成果【1】: 1～3 年生のリテラシー向上へ向けた、教員の教授スキルが強化される 【1】 1. リテラシー向上指導員（マスター・トレーナー）の育成 1.1 リテラシー向上指導員の選出 <1 年次のみ> 県と郡の関係機関と協議し、県教育スポーツサービス（Provincial Education and Sports Bureau、以下 PESS）と郡教育スポーツ局（District Education and Sports Bureau、以下 DESB）のテクニカルスタッフ各 2 名、国レベル職員 1 名のリテラシー向上指導員（マスター・トレーナー）を計 5 名選出する。 1.2 研修教材の作成 <1 年次のみ> 指導員研修用教材や教員用ガイドなど、指導員研修と教員向け研修に必要な教材¹¹をラオス語に翻訳し印刷する。 1.3 指導員研修（TOT）の実施 <毎年次> 教授法やモニタリング手法に関する 5 日間の指導員研修を 1 年次に実施する。講師は WV の専門スタッフ 2 名が務める。2 年次・3 年次には 3 日間のレフレッシュ研修を実施する。 【1】 2. 1～3 年生担当教員のリテラシー教授スキルの強化 2.1 教員・校長・村落教育開発委員（Village Education Development Committee:以下 VEDC）へのオリエンテーション実施。 <対象> 対象 14 校の教員・校長・村落教育開発委員（各村で計 12～15 人程度） <内容> 教員研修（リテラシー向上のための教授法研修）の目的やアプローチについて、DESB 職員と WV スタッフが説明を行う。1 年次のみ実施。 2.2 リテラシー向上指導員による、1～3 年生担当教員に対するリテラシー教授法研修の実施 <毎年次> <講師> DESB・PESS 職員（TOT 研修受講者）、WV スタッフ <対象> 1～3 年生担当教員と校長、各校 4 名、14 校計 56 名。14 校 56 名を 2 グループに分け、各 2 回実施する。 【1】 3. 対象校での図書の整備・管理 3.1 各校の図書の利用状況や整備・管理に関する学校および VEDC との協議 <毎年次> 3.2 教員研修の実施 <毎年次> 読書コーナーの設置、読書活動、図書管理などについて対象各校からの教員を対象に 2 日間の研修を行う。研修は 2 グループに分けて実施。2 年次・3 年次には各校の事例紹介や意見交換のセッ
----------	--

¹¹ WV と Save the Children(以下 SC)は共同で読解力向上モデルの開発に取り組んでおり、開発された教材を本事業では現地のコンテキストに合わせて必要な修正を加えて使用する。なお WV と SC はそれぞれ開発した教材ツールを、読解力向上モデル（SC は Literacy Boost、WV は現在 Unlock Literacy と呼称）の実践において相互に活用している。

	ションを実施する。 3.3 各校への図書および各種リテラシー教材（約 200 部。文字カードやポスターなども含む）、本箱、読書コーナー用資材（椅子、床マット、収納箱、読書に関連するグッズなど）の供与 ＜毎年次＞ 【1】4. 生徒のリテラシー調査実施および教授法改善への活用 4.1 リテラシー調査実施のための資材調達および調査員確保 4.2 リテラシー調査手法に関するワークショップ実施 ＜1 年次＞ 教育スポーツ省／PESS 職員とともに調査ツールのレビューを行う。また比較調査の対象とする非介入校（6 校）を選ぶ。 4.3 調査員対象の調査手法トレーニングの実施＜毎年次＞ ＜内容＞ 調査員 4 名に対する、調査実施方法に関する 2 日間のトレーニング。リテラシー調査は生徒と調査員（＝試験官）の 1 対 1 の対面方式で行うため、正しい実施方法（子どもの保護への配慮を含む）について毎回トレーニングが必要となる。調査員は大学生レベルの人材を臨時雇用する。 4.4 リテラシー調査の実施＜毎年次＞ ＜対象＞ 事業対象校 14 校、非介入校 6 校の 3 年生 ＜内容＞ WV が開発した調査ツールである STAR (School-based Test About Reading)¹²を用いて対面方式で実施し、結果をその場で調査員がタブレットに入力する。 4.5 関係機関とのレビュー・ワークショップの実施 ＜毎年次＞ ＜参加者＞ 教育スポーツ省、PESS、DESB、および WV の教育テクニカルスタッフ ＜内容＞ リテラシー調査結果を分析し、教授法の改善や活動内容への活用について協議する。 成果【2】子どもたちの学習に対するコミュニティからのサポートが強化される 【2】1. コミュニティでのリテラシー向上活動（読書グループ）推進へ向けた住民ボランティアの育成 1.1 コミュニティでのリテラシー向上活動（指導員研修、オリエンテーション、ファシリテーター育成研修）用資料の準備 ＜1 年次のみ＞ コミュニティ活動用のツールキット（活動ガイドライン、文具など）の調達・翻訳等を行う。 成果【3】小学校の水衛生設備が改善され、健全な学習環境が整備される 【3】1. 対象校における水衛生設備などの環境改善 1.1 対象校の水衛生施設現況の再確認および協議＜1 年次のみ＞ DESB 職員と WV スタッフが対象校を訪問し、衛生設備の最新の現況を再確認するとともに施工前の協議を行う。
--	--

¹² STAR (School-based Test About Reading) は Alphabet knowledge, word recognition, decoding, oral reading ability, reading comprehension のスキルを測定する 5 つのコンポーネントから成る。

1.2 対象校の水衛生施設の建設もしくは改修 <1 年次のみ>

施工前に水質検査を行い¹³、対象 14 校に水供給設備およびトイレの設置あるいは改修を行う（下表）。事業スタッフが随時現場に赴きモニタリングを行い、工事に問題・瑕疵がないか確認し、必要に応じ具体的な指導を行う。

1.3 水衛生施設用備品の調達・供与<1 年次のみ>

必要な教材および備品（歯ブラシ・歯磨き粉、石鹸、トイレ清掃用具、水ろ過フィルターなど）各校へ供与する。

No.	学校名	必要な施設と数			
		井戸	ポンプ/タンク	手洗い場	トイレ (部屋数)
1	HINTANGKHOK primary school		1	1	2
2	NONSAVANG primary school		1	1	2
3	PHUEVIENGKHAM primary school		1	1	2
4	HINTANGKANG primary school		1	1	2
5	NAPAC primary school	1	1	1	2
6	NONSOMBOUN primary school	1	1	1	2
7	NALAVEA primary school	1	1	1	2
8	NATHAMUAN primary school	1	1	1	2
9	DONSAT primary school	1	1	1	2
10	NAXENG primary school	1	1	1	2
11	NATANG-TAI primary school	1	1	1	2
12	NATANG-LAO primary school	1	1	1	2
13	NATHAMMOU primary school	1	1	1	2
14	NATANGKANG primary school	1	1	1	2
合計		10	14	14	28

【3】 2. 対象校での衛生的な習慣の習得

2.1 手洗い場の設置、維持管理研修、学校衛生研修および学校衛生活動の実施

①手洗い場の設置および維持管理研修の実施 <1 年次のみ>

手洗い場（“Washalots”）の設置方法研修と設置支援、完成した水衛生施設の維持管理研修を実施する。

<講師> PESS の協力のもと、DESB 職員と WV スタッフが実施

<対象> 教員および VEDC

②学校衛生研修の実施 <1 年次>

<講師> DESB 職員と WV スタッフ

<対象> 教員および VEDC

<内容> 衛生習慣や公衆衛生の重要性、実践方法、およびラオス政府/ユニセフが推進する Fit For School 活動（トイレの使用・手洗い・歯磨きの促進）について学ぶ。各校 1 日。

③学校衛生活動の実施 <毎年度>

手洗い・歯磨き¹⁴を毎日行うよう教員が生徒に指導する。

また①～③の活動時の適切なタイミングに現地メディア関係者を招へいし、ラオス国民に対して本邦 ODA 事業への関心喚起を図る。

¹³ 各村の安全な水源については既に把握しているが、施工前に設置予定地点の水質検査を行う。万が一水質に問題が生じた場合は設置地点を変更して対応する。

¹⁴ ラオス政府がユニセフと協働で実施する Fit For School 施策では、手洗いと歯磨きがセットで実施されており、本事業でもそれを踏まえた学校衛生活動を行う。歯ブラシ・歯磨き粉は教材として供給し、手洗いと歯磨きの習慣化を図る。歯ブラシ・歯磨き粉は現地ではマーケットで安価に入手できるため、いったん習慣化すれば自前で調達・継続できるものである。なお学校衛生にオーラル・ヘルスを導入することで子どもの栄養や成長全般に良い影響を及ぼすことがラオスを含めた研究で明らかになっている。参照：ユニセフ

(2015)、J. Dimaisip-Nabuab, “Nutritional status, dental caries and tooth eruption in children: a longitudinal study in Cambodia, Indonesia and Lao PDR”, BMC Pediatrics (2018) (http://www.fitforschool.international/wp-content/uploads/Dimaisip-Nabuab_et_al_2018.pdf)

	成果【4】：政府関係機関との連携・モニタリング体制が強化される 【4】 1. PESS/DESB 関係者らによる本事業への理解促進と連携強化 1.1 PESS/DESB 関係者との会合実施 <1 年次> 事業開始にあたり、県・郡政府の関係者の本事業への理解促進を図り必要な調整を行うと共に、事業スタッフとの相互理解促進を図るための会合を実施する。県・郡政府との MOU 締結式も兼ねる¹⁵。 1.2 ベースライン調査（1 年次のみ）の実施および各校の概要をまとめたファクト・シートの作成・共有 1.3 PESS/DESB 関係者との定期会合の実施 <1～3 年次> PESS/DESB 関係者と WV スタッフとの間で、事業の進捗や課題について共有・協議するための定期会合を半期に 1 回実施。1 回目は進捗のレビューや今後の計画および課題や変更点について協議し、2 回目は事業成果の共有と次年度計画について協議する。 【4】 2. 政府機関関係者と連携した学校およびコミュニティでの活動に対するモニタリング／コーチング体制構築 2.1 スタートアップ・ワークショップの実施 県・郡職員および WV 事業スタッフによるキックオフ会合およびフォローアップを各 1 回実施。実務的会合として事業計画、各活動、関係者の役割等について詳細な確認を行う。1 年次後半にはフォローアップ会合も行う。 2.2 学校へのモニタリング／コーチング訪問および校長との定期会合 DESB 職員と WV スタッフが各校を 2 か月に 1 回訪問し、授業の様子・図書の利用状況・学習環境・衛生促進活動の状況などについて、モニタリング／コーチングを行う。また 4 半期に 1 回、校長との会合を持つ。<毎年次> 2 年次 【成果 1】 1～3 年生のリテラシー向上へ向けた、教員の教授スキルが強化される 【1】 1. リテラシー向上指導員（マスター・トレーナー）の育成 1.3 指導員向けリフレッシュ研修（TOT）実施 【1】 2. 1～3 年生担当教員のリテラシー教授スキルの強化 2.2 1～3 年生担当教員に対するリフレッシュ研修の実施。各校の事例紹介や意見交換などを行う。 【1】 3. 対象校での図書の整備・管理 3.1 各校の図書の利用状況や整備・管理状況の確認（毎年次） 追加図書が有効に活用できるよう、毎年確認を行う。 3.2 図書管理に関する教員向けリフレッシュ研修の実施
--	--

¹⁵ ラオス政府との MOU は事業開始までに締結するが、ここで行うのは県・郡関係者との署名セレモニーとなる。県・郡レベルでの事業開始時のセレモニー実施は、現地では事業の円滑な実施のために必須となっている。

	3.3 各校への図書（約 200 冊）、本箱、読書コーナー用資材等の供与 これら資材は毎年新たに追加する。 【1】4. 生徒のリテラシー調査実施および教授法改善への活用 以下のリテラシー調査およびレビューは毎年次実施し、活動の成果を測定し活動に反映する。 4.3 調査員対象の調査手法トレーニングの実施 調査員は調査時のみ臨時雇用のため前年度と異なる人物になる可能性があることや、正しい実施方法（子どもの保護への配慮を含む）を担保する観点から、毎年トレーニングを行う。 4.4 リテラシー調査の実施（調査は生徒と調査員が 1 対 1 で実施） 4.5 関係機関とのレビュー・ワークショップの実施 【成果 2】子どもたちの学習に対するコミュニティからのサポートが強化される 【2】1. コミュニティでのリテラシー向上活動（読書グループ）推進へ向けた住民ボランティアの育成 1.2 コミュニティでの読書グループ活動用の必要資材（絵本、本箱、啓発ポスター、紙・文具など）の調達＜2～3 年次＞ 1.3 リテラシー向上活動の指導員研修実施 ＜2 年次＞ ＜対象＞ 教育スポーツ省、PESS、DESB 職員および WV スタッフ ＜内容＞ コミュニティでのリテラシー向上活動に携わる読書ファシリテーター育成のための指導員育成研修 1.4 VEDC、教員、保護者へのオリエンテーション実施 ＜2 年次＞ ＜講師＞ 指導員研修を受けた PESS/DESB 職員および WV スタッフ ＜内容＞ コミュニティでの読書活動に関するオリエンテーション。「読書グループ・ファシリテーター」選定についても協議する。 1.5 「読書グループ・ファシリテーター」育成研修の実施＜2～3 年次＞ ＜講師＞ 指導員研修を受けた PESS/DESB 職員および WV スタッフ ＜内容＞ 対象の 14 コミュニティを 2 グループに分けて実施。3 年次にリフレッシュ研修も実施。 【2】2. コミュニティでの子ども向け読書グループ活動 2.1 コミュニティでの読書グループ活動の実施 ＜2～3 年次＞ 2.2 読書グループ・ファシリテーターが中心となって各村で読書啓発イベントを年 1 回開催。子どもの保護に関する啓発活動も組み込む16。＜2～3 年次＞ 【2】3. 子どものリテラシー向上に関する保護者の知識とスキル向上 3.1 保護者対象の読書啓発ワークショップの実施 ＜2～3 年次＞
--	---

¹⁶ 子どもの保護とは、コミュニティ・学校・家庭を含め広く社会において子どもが尊重され、様々な形態の暴力から守られ必要なケアを受けられることを目指すものである。WV ではライフスキル（対応力）の向上、意識・行動変容、支援メカニズム、政策という 4 つのアプローチから子どもの保護に取り組んでいる。本事業による学習環境改善とリテラシー向上へ向けた活動は、ライフスキル、意識・行動変容（生徒・教員・保護者・住民）、支援メカニズムに特に関連しており、子どもが不適切な扱いを受けることなく安心できる環境のもとで主体的に活動に取り組むことができるよう、研修内容や活動の実施運営に子どもの保護のアプローチを反映させるとともに、専門知識を持った WV スタッフが随時モニタリングや関係者への働きかけを行っていく。

	PESS/DESB 職員および WV スタッフがファシリテーターとなつて、各対象村で保護者対象の読書啓発ワークショップ（本や文字に親しむ機会を校外に持つことの意義と方法、保護者の関わり方など）を実施。農耕の繁忙期を避け、3セッションに分けて実施する。 3.2 読書コーナー開始支援 <2 年次のみ> 読書グループ参加児童や保護者向けワークショップに参加した保護者によるコミュニティでの読書コーナー設置をサポートする。 【成果 3】 小学校の水衛生設備が改善され、健全な学習環境が整備される 【3】 2. 対象校での衛生的な習慣の習得 2.1 学校衛生活動の実施 <毎年次> 【成果 4】 政府関係機関との連携・モニタリング体制が強化される 【4】 1. PESS/DESB 関係者らによる本事業への理解促進と連携強化 1.3 PESS/DESB 関係者との定期会合の実施 <毎年次> 定期実施により、事業の理解と連携の強化・定着を図る。 【4】 2. 政府機関関係者と連携した学校およびコミュニティでの活動に対するモニタリング／コーチング体制構築 2.1 キックオフ会合の実施 <1～2 年次> 1 年次の成果レビューと 2 年次の活動目標・目的・予定などを確認する。 2.2 学校へのモニタリング／コーチング訪問および校長との定期会合 <毎年次> 毎年継続的に実施し、連携体制強化と学校での活動の定着・質の向上を図る。 2.3 コミュニティへのモニタリング／コーチング訪問 <2～3 年次> PESS/DESB 関係者と WV スタッフが各対象村を 2 か月に 1 回訪問し、読書グループ・ファシリテーターの活動状況、図書の利用・管理状況の確認や、読書グループ活動参加児童の家庭訪問などを行う。 3 年次 【成果 1】 1～3 年生のリテラシー向上へ向けた、教員の教授スキルが強化される 【1】 1. リテラシー向上指導員（マスター・トレーナー）の育成 1.3 指導員向けリフレッシュ研修（TOT）の実施 <毎年次> これまでの活動の振り返り、知識・理解の確認、最終年次における取組みの確認などを含む。 【1】 2. 1～3 年生担当教員のリテラシー教授スキルの強化 2.2 1～3 年生担当教員に対する教授法リフレッシュ研修の実施 <毎年次>：事例紹介・意見交換を通じてスキルの改善・定着を図る。 【1】 3. 対象校での図書の整備・管理
--	--

	3.1 各校の図書の利用状況や整備・管理状況の確認 <毎年次> : 追加図書が有効に活用できるよう、毎年確認を行う。 3.2 教員リフレッシュ研修の実施 <2～3 年次> : 管理・活用状況のレビューと改善、事業終了後に向けた最終年次における取組みの確認を含む。 3.3 各校への図書 (約 200 冊)、本箱、読書コーナー用資材等の供与 <毎年次> : これら資材は毎年新たに追加する。 【1】4. 生徒のリテラシー調査実施および教授法改善への活用 リテラシー調査およびレビューは毎年実施し、活動の成果を測定し活動に反映する。 4.3 調査員対象の調査手法トレーニングの実施 4.4 リテラシー調査の実施 4.5 関係機関とのレビュー・ワークショップの実施 【成果 2】子どもたちの学習に対するコミュニティからのサポートが強化される 【2】1. コミュニティでのリテラシー向上活動 (読書グループ) 推進へ向けた住民ボランティアの育成 1.2 読書グループ活動用の必要資材¹⁷の補充・整備 <2～3 年次> 1.5 「読書グループ・ファシリテーター」育成リフレッシュ研修の実施<2～3 年次> : 活動の振り返りおよび改善・定着を図る。 【2】2. コミュニティでの子ども向け読書グループ活動 2.1 コミュニティでの読書グループ活動の継続実施 <2～3 年次> 2.2 読書グループ・ファシリテーターが中心となり、各村で読書啓発イベントを年 1 回継続開催 <2～3 年次> 【2】3. 子どものリテラシー向上に関する保護者の知識とスキル向上 3.1 保護者対象の読書啓発リフレッシュ・ワークショップの開催 <2～3 年次> 2 年次に引き続いて開催し、読書の意義や効果、子どもへの働きかけなどについて一層の理解定着を図る。 【成果 3】小学校の水衛生設備が改善され、健全な学習環境が整備される 【3】2. 対象校での衛生的な習慣の習得 2.1 学校衛生活動の実施 <毎年次> 【成果 4】政府関係機関との連携・モニタリング体制が強化される 【4】1. PESS/DESB 関係者らによる本事業への理解促進と連携強化 1.2 DESB と連携してエンドライン調査 (3 年次) を実施し、各校の現況をアップデートしたファクト・シートを作成・共有する。 1.3 PESS/DESB 関係者との定期会合の実施 <毎年次> :
--	---

¹⁷ 読書グループ活動における 2 年次供与資材への補充や追加

	毎年継続実施し定着を図る。 【4】 2. 政府機関関係者と連携した学校およびコミュニティでの活動に対するモニタリング／コーチング体制構築 2.2 学校へのモニタリング／コーチング訪問および校長との定期会合 ＜毎年次＞ 2.3 コミュニティへのモニタリング／コーチング訪問 ＜2～3 年次＞ 直接裨益人口：約 1,900 人（事業対象地の小学生・教員・VEDC・保護者） 間接裨益人口：約 38,680 人（事業対象地の住民。直接裨益人口を除く）
(6) 期待される成果と成果を測る指標	1 年次 【成果 1】1～3 年生のリテラシー向上へ向けた、教員の教授スキルが強化される <u>指標¹⁸</u> ・ リテラシー向上 TOT 研修に 80%以上出席しポストテストで 80%以上を正解した指導員の割合が研修受講者（8 人予定）の 80%に達する（研修実施時に測定） ・ 教授法研修に 80%以上出席しポストテストで 80%以上を正解した教員の割合が研修受講者（28 人予定）の 70%に達する（研修実施時に測定） ・ 対象校のうち読書環境（読書コーナー）が各校の環境に合わせて適切に整備されている学校の割合。（図書、ポスター、図解、ワード・ツリーなどの各種リテラシー教材が、生徒と教員の双方にとって、いつでも読む・見ることができる状態に設置されていることが基準となる）（1 年次：14 校中 25%以上が達成。モニタリングを通じて年 2 回測定） ・ 対象校において、リテラシー調査で合格ラインに達した 3 年生の割合が毎年上昇する¹⁹（毎年 2 回測定。調査に参加した生徒の人数を分母とする。前述の STAR アセスメントツールを用いる。合格ラインは、朗読での間違い 3 か所以内、文章の内容に関する設問に 3 問中 2 問正解。初回リテラシー調査後に上昇率の目標を設定する） ・ 教授法研修受講者（28 人予定）のうち、研修で獲得したスキルを活用してリーディングを教えている教員の割合が増加する（学校モニタリングの際に随時測定） <u>確認方法</u>

¹⁸ 成果 1 の指標はすべて、WV が開発したリテラシー向上モデル(Unlock Literacy Model)を世界各国で実施する中で、団体としての成功事例や実績に基づく経験値として設定された基準指標である。

¹⁹ ラオス政府との MOU が無い段階で STAR によるベースライン調査を各校で実施することは困難なため、上昇率などの具体的な数値目標は 1 年次当初のリテラシー調査（＝ベースライン）をもとに設定する。なお脚注 7 にあるように、条件の似た県（少数民族の多い農村部）での調査では出題された単語の理解度は平均 20%、文章理解度は 2～4%である。また WV がネパール、セネガル、エチオピアで同様のリテラシー向上事業を実施した際のエンドライン・データでは、STAR で読解力が合格ラインに達した生徒の割合はベースライン時から平均 37.7%ポイント上昇した（ネパール・セネガル各 44 ポイント、エチオピア 25 ポイント上昇）。よってラオスでも 25 ポイント以上程度の上昇は想定できるものと考えられる。

	研修記録、学校モニタリング、授業計画の確認、リテラシー調査 【成果 2】子どもたちの学習に対するコミュニティからのサポートが強化される <u>指標</u> ・ コミュニティでのリテラシー向上活動用ツールキットが調達・翻訳される。 【成果 3】小学校の水衛生設備が改善され、健全な学習環境が整備される <u>指標</u> ・ 建設・改修された水衛生施設が教育省の基準²⁰を満たしている学校の数（目標値：対象 14 校中 14 校が達成） ・ 過去 24 時間内に学校で屋外排泄を行っていないと回答した生徒の割合（目標値：調査の対象者数中、1 年次で 50%が行っていないと回答） ・ 少なくとも毎日 1 回、手洗い促進活動を通じて生徒全員が手洗いを行っている学校の数（毎年 2 回モニタリングで確認。目標値：対象 14 校中 14 校が実施） ・ 適切な手洗い・歯磨き習慣を身につけている生徒の割合（モニタリング時に年 2 回測定。過去 24 時間の必要な時に手洗い 2 回以上および歯磨き 1 回以上を実施したと回答した生徒の割合を測定）（目標値：調査の対象者数中、手洗いは 50%、歯磨きは 50%が実施したと回答） ・ メディアによる取材が少なくとも 1 回行われる。 <u>確認方法</u> 各校の活動記録、およびモニタリング記録 【成果 4】政府関係機関との連携・モニタリング体制が強化される <u>指標</u> ・ 助言や提案を伴った対象校および対象村へのモニタリング／コーチングの実施回数（毎年 1 回測定。目標値：1 年次 5 回） <u>確認方法</u> 活動記録、エンドライン調査 2 年次 【成果 1】1～3 年生のリテラシー向上へ向けた、教員の教授スキルが強化される <u>指標</u> ・ リテラシー向上 TOT リフレッシュ研修に 80%以上出席しポストテストで 80%以上を正解した指導員の割合が研修受講者（8 人予定）のうち 80%に達する ・ 教授法リフレッシュ研修に 80%以上出席しポストテストで 80%以上を正解した教員の割合が研修受講者（28 人予定）の 70%に達する ・ 対象校のうち読書環境（読書コーナー）が各校の環境に合わせて適切に整備されている学校の割合。（2 年次：対象 14 校中 75%以上が
--	--

²⁰ 水洗式、最低 2 室、生徒数に対し 1 室あたり 75 人未満、校舎から 20m 以上離す、換気の確保など。（*School Construction Guideline*, Ministry of Education, 2009）
https://planipolis.iiep.unesco.org/sites/planipolis/files/ressources/lao_pdr_school_construction_guidelines.pdf

	達成) - 対象校において、リテラシー調査で合格ラインに達した3年生の割合が1年次よりも上昇する(1年次リテラシー調査後に上昇率の目標を設定。調査を受けた3年生の合計を分母とする。) - 教授法研修受講者(28人予定)のうち、研修で獲得したスキルを活用してリーディングを教えている教員の割合が1年次よりも増加する 【成果2】子どもたちの学習に対するコミュニティからのサポートが強化される(2～3年次のみ対象) <u>指標²¹</u> - 読書グループ・ファシリテーター育成研修で75%以上のセッションに出席しポストテストでプレテストよりも正解数が増えた住民ボランティア(読書グループ・ファシリテーター)の割合が研修参加者(23人予定)の70%に達する(研修時に測定) - 設定された基準²²を満たして活動を行っている読書グループの割合が増加する(ベースライン実施後に増加率の目標値を設定。活動チェックシートでモニタリング時に年2回測定。設置グループ数(14グループを予定)を分母とする) - 保護者向け読書啓発ワークショップ参加者(30人予定)のうち、75%以上のセッションに出席しポストテストでプレテストよりも正解数が増えた保護者の割合が上昇する(ベースライン実施後に増加率の目標値を設定。研修時に測定。) - 直近1週間に読書グループ活動に参加した子どもの数が増加する(ベースライン実施後に増加率の目標値を設定。モニタリング時に年4回確認) <u>確認方法</u> 研修記録、プレ/ポストテスト、読書グループ活動チェックシート 【成果3】小学校の水衛生設備が改善され、健全な学習環境が整備される <u>指標</u> - 過去24時間内に学校で屋外排泄を行っていないと回答した生徒の割合(目標値:調査対象者中、2年次で60%が行っていないと回答) - 少なくとも毎日1回、手洗い促進活動を通じて生徒全員が手洗いを行っている学校の数(毎年2回モニタリングで確認。目標値:対象14校中14校が実施) - 適切な手洗い・歯磨き習慣を身につけている生徒の割合(過去24時間の必要な時に手洗い2回以上および歯磨き1回以上を実施したと回答した生徒の割合を測定) (目標値:調査対象者中、手洗いは60%、歯磨きは60%が実施と回答) 【成果4】政府関係機関との連携・モニタリング体制が強化される
--	--

²¹ 成果1の指標はすべて、WVが開発したリテラシー向上モデル(Unlock Literacy Model)を世界各国で実施する中で、団体としての成功事例や実績に基づく経験値として設定された基準指標である。

²² 研修を受けたボランティアがファシリテーターを務めている、ガイダンスで定められたカリキュラムに基づいて活動を行っている、必要な資材を備えている、毎週活動実施を基本とする、コンスタントに参加者がいる、など。

	<u>指標</u> ・ 助言や提案を伴った対象校および対象村へのモニタリング／コーチングの実施回数（目標値：年 5 回） 3 年次 【成果 1】1～3 年生のリテラシー向上へ向けた、教員の教授スキルが強化される <u>指標</u> ・ リテラシー向上 TOT リフレッシュ研修に 80%以上出席しポストテストで 80%以上を正解した指導員の割合が研修受講者（8 人予定）の 80%に達する ・ 教授法リフレッシュ研修に 80%以上出席しポストテストで 80%以上を正解した教員の割合が研修受講者（28 人予定）の 70%に達する ・ 対象校のうち読書環境（読書コーナー）が各校の環境に合わせて適切に整備されている学校の割合。（3 年次：対象 14 校中 100%が達成） ・ 対象校において、リテラシー調査で合格ラインに達した 3 年生の割合が 2 年次よりも上昇する（初回リテラシー調査後に上昇率の目標を設定。調査を受けた 3 年生の合計数を分母とする。） ・ 教授法研修受講者（28 人予定）のうち、研修で獲得したスキルを活用してリーディングを教えている教員の割合が 2 年次よりも増加する 【成果 2】子どもたちの学習に対するコミュニティからのサポートが強化される（2～3 年次のみ対象） <u>指標</u> ・ 読書グループ・ファシリテーター育成リフレッシュ研修で 75%以上のセッションに出席しポストテストでプレテストよりも正解数が増えた住民ボランティア（読書グループ・ファシリテーター）の割合が研修参加者（23 人予定）の 70%に達する ・ 設定された基準を満たして活動を行っている読書グループの割合が 2 年次よりも増加する（ベースライン実施後に増加率の目標値を設定。設置数（14 グループ予定）を分母とする） ・ 保護者向け読書啓発リフレッシュ・ワークショップ参加者 30 人（予定）のうち、75%以上のセッションに出席しポストテストでプレテストよりも正解数が増えた保護者の割合が 2 年次よりも増加する（ベースライン実施後に増加率の目標値を設定） ・ 直近 1 週間に読書グループ活動に参加した子どもの数が 2 年次よりも増加する（ベースライン実施後に増加率の目標値を設定） 【成果 3】小学校の水衛生設備が改善され、健全な学習環境が整備される <u>指標</u> ・ 過去 24 時間内に学校で屋外排泄を行っていないと回答した生徒の割合（目標値：調査の対象者中、3 年次で 70%が行っていないと回答） ・ 少なくとも毎日 1 回、手洗い促進活動を通じて生徒全員が手洗いを
--	---

	行っている学校の数 (目標値: 対象 14 校中 14 校が実施) - 適切な手洗い・歯磨き習慣を身につけている生徒の割合 (過去 24 時間の必要な時に手洗い 2 回以上および歯磨き 1 回以上を実施したと回答した生徒の割合) (目標値: 調査の対象者中、手洗いは 70%、歯磨きは 70%が実施と回答) 【成果 4】政府関係機関との連携・モニタリング体制が強化される指標 - 助言や提案を伴った対象校および対象村へのモニタリング／コーチングの実施回数 (目標値: 年 3 回実施) ※1-2 年次よりも目標値が低いのは、最終年は活動スケジュールの関係で 3 回のみ実施予定のため。 ※参考 【上位目標】タパントン郡において、対象小学校における 1~3 年生のリテラシー (読解力) が向上することにより、識字率の向上ひいては退学率の減少にも寄与する。 <u>指標</u> 各対象校で過去 12 ヶ月の間に退学し復学していない生徒の割合が減少する。(毎年測定。対象校の調査時在籍生徒数を分母とした割合)
(7) 持続発展性	本事業では、教員・行政・保護者・住民 (ボランティア、VEDC) などのステークホルダーと、計画・実施・モニタリング・評価の事業サイクルの各段階において密接に連携・協働し、関係者のエンパワーメントとオーナーシップの強化を図ることで、事業成果の持続発展性を確保する。また既存の行政システム・制度に沿った活動を行い、ラオス教育スポーツ省の県・郡職員がリテラシー向上の指導員となることで、本事業の活動を地方行政に組み入れていくことが可能である。なお同省の 2016-2020 年の中期計画においても、小学校における読解力向上が重視されている。 また対象小学校に建設・改修する水衛生施設は、維持方法について研修を行った上で、各校が責任を持って予算を確保し管理できるよう体制を整備する。